

卓越した経営(Performance Excellence パフォーマンス・エクセレンス)を目指して
—「開倫5S学校」の5Sの取り組み—

足利5S学校
開倫塾5S現地視察会講演資料

2015年5月26日(火)
13:30~15:00
開倫塾足利本校3F教室

開倫塾
塾長 林 明夫

卓越した業績(Performance Excellence、パフォーマンス・エクセレンス)を目指して
—開倫塾の経営品質向上への取り組みとは—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q1：開倫塾の創業と株式会社の設立はいつですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)開倫塾は「1979年10月」に足利市百頭町で「創業」されました。
- (2)株式会社開倫塾は「1985年10月」に「設立」されました。
- (3)「本社住所地」は「栃木県足利市堀込町145」です。
- (4)塾長と代表取締役社長は創業者の林明夫です。
- (5)事業の内容は小学校1年生から高校3年生ままでを対象とする学習塾です。栃木県、群馬県、茨城県に60余の校舎を展開する北関東では屈指の本格的進学塾です。



Q2：開倫塾の社会的使命(ミッション)、存在意義は何ですか。

A：(1)「塾生の成功の実現に貢献」することです。

- ①開倫塾では「学力」を「主体的に学ぶ力」と定義します。
- ②「学力」を身に着けることは「多様な選択肢のある人生を歩むこと」に直結します。「学力」は「人生の成功」に結びつきます。

(2)「地域の教育力の向上に貢献」することです。

- ①「学力の向上」は「地域の教育力の向上」に直結します。
- ②「地域の教育力の向上」は「正常に機能する社会の形成」に結びつきます。

Q3：「開倫塾の教育目標」は何ですか。それに対応する「キー・コンピテンシーズ」は何ですか。

A：(1)「高い倫理」…「自律的に活動する能力」

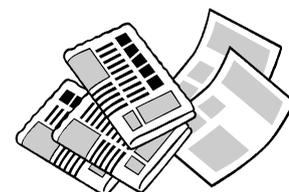
(2)「高い学力」…「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(3)「高い国際理解」…「多様な集団で交流する能力」

(4)「自己学習能力の育成」…「学習の方法」を身に着けていること

- ・「読書」により「思慮深さ」を身に着けること…「書き抜き読書ノート」を。
- ・「新聞」を毎日読み、「自分で考える力」、「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に着けること…「スクラップブック」を。

*開倫塾は「NIE(Newspaper In Education)新聞を教育へ」を推進しています。



Q 4 : 開倫塾の行動目標は何ですか。

A : (1) 「教え方日本一」を目指します。

- ①すべての社員が自分なりの教え方日本一を目指します。
 - ②「授業の設計」を行い、「レクンプラン」に基づいた指導を行います。
* 「本日の目標 (Can Do キャン・ドゥー)」を示した毎日の指導
 - ③「一人模擬授業」と「全国模擬授業大会」で、教え方を向上させます。
* 毎年 5 月の最終日曜日には、足利市で「全国模擬授業大会」を開催
2015 年 5 月 24 日 (日) 10:00 ~ 17:00、白鷗大学足利高校で第 10 回を開催
- (2) 「塾生数北関東一」を目指します。
- ①教え方日本一を目指す開倫塾を北関東のすみずみに。
 - ②校舎のある地域で、地域一番塾を目指します。

Q 5 : 開倫塾の経営方針は何ですか。

- A : (1) 「学ぶに値する塾づくり」
(2) 「働くに値する職場づくり」
(3) 「倒産しない会社づくり」



Q 6 : 開倫塾の全社員に共通する業務は何ですか。

- A : (1) 「教育業務」…学習指導(教えること)
(2) 「募集業務」…「募集なくして教育なし」
(3) 「基本業務」…顧客・ビジネスパートナー・社員とのコミュニケーション

Q 7 : 開倫塾の社員の禁止事項は何ですか。

- A : (1) 「セクシズム」…性による差別
(2) 「エイジズム」…年齢による差別
(3) 「レイシズム」…出身による差別

Q 8 : 開倫塾の経営の基本理念は何ですか。

- A : (1) 「顧客本位」
- ①開倫塾では「顧客」を「塾生」「保護者」「地域社会」と定義。
 - ②開倫塾では「一流校」を「塾生が進学を希望する学校」と定義。
 - ③「学校成績の向上」と「塾生の一流校 100 %合格」を目指します。
- (2) 「独自能力」
- ①独自能力の前提として「競合比較」と 3 つの「ベストプラクティスのベンチマーク」を徹底的に行います。
 - ②開倫塾では「自分以外は皆師」の考えのもとで 3 つの「ベストプラクティスのベンチマーク」を積極的に行います。
(ア) 社内ベストプラクティスのベンチマーク
(イ) 同業他社のベストプラクティスのベンチマーク
(ウ) 異業種のベストプラクティスのベンチマーク

(3) 社員重視

- ① 「社員重視」の中心概念は「empowerment エンパワーメント」です。
- ② 英語の「empowerment」には「能力強化」と「権限委譲」の2つの意味があります。
- ③ 社員一人ひとりの「能力強化」が生産性の向上、質の高い仕事、雇用の維持・拡大に直結します。
- ④ 「能力強化」をした社員には「権限委譲」を行います。
- ⑤ 開倫塾は社員が自らの潜在能力を自らの力で発見し引き伸ばす企業を目指します。

(4) 社会との調和—企業市民(Corporate Citizenship)として目指すもの—

- ① 法令遵守(コンプライアンス)
- ② 社会貢献活動の推進(CSR)
- ③ 社会的企業(Social Enterprise)



Q 9 : 開倫塾で推進していることは何ですか。

A : (1) 「開倫 5S 学校」

- ① 「整理」 seiri … 要らないものを捨てること
- ② 「清掃」 seisou … 掃除すること
- ③ 「整頓」 seiton … ものを決まったところに置くこと
- ④ 「清潔」 seiketsu … ①～③の状態を保つこと
- ⑤ 「躰」 shituke … 自分から進んで①～④をやること



(2) 「キャリア権」推進企業宣言

- ① 自分のキャリアを自分の力で形成することは基本的人権の1つ「キャリア権」と考えます。
 - ② 開倫塾は顧客である塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、そして何よりも社員の皆様のキャリア形成を全面的に支援するキャリア権推進企業を目指します。
- (3) 「開倫ユネスコ協会」はじめ「地域ユネスコ協会・ユネスコクラブ」や「日本ユネスコ協会連盟」など日本及び世界のユネスコ活動の支援
- * 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という「ユネスコ宣言」に基づくユネスコ活動の全面的支援を目指します。

Q 10 : 「学習の3段階理論」とは何ですか。

- A : (1) 開倫塾の創業者である林明夫塾長が、1979年の創業以来考え続けた効果の上がる学習の方法です。多くの塾生、保護者、地域社会の皆様が学習する上で一番困っているのは勉強の仕方がわからないことであるということを知り、取りまとめ始めたものです。
- (2) 学習を「理解」「定着」「応用」の3つの段階に分け、それぞれの段階に特有の学び方を示したのが「学習の3段階理論」です。
- (3) 「理解」とは今学んでいることがよくわかること、「定着」とはそれを身に着けること、「応用」とは理解・定着したことを用いてテストでよい点数を取ること、社会で役立つことです。

Q11：「理解」とは何ですか。

A：(1)「理解」とは「うんなるほどとよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちること」と定義します。

(2)「理解」には自分一人で学ぶ場合と他人(つまり先生)から授業などで教わる場合があります。

(3)「授業中に理解」するときのポイント

①手を机の上に置き、先生の目を見て一言も聞き漏らさないように真剣にお話を聞くこと。

②先生の指示に従って積極的に授業に参加すること。

③必要なことはすべてノートを取ること。「ノートを取る」ことができるのは極めて高い能力の一つです。

④遅刻、欠席、早退、居眠り、おしゃべり(私語)、ケータイ、スマホ、ボーッとしていることは「授業での理解」の妨げになります。できるだけ避けましょう。

(4)「自分で理解」するときのポイント

①学習する教材を決め、学校や開倫塾の先生のお話を教室でお聞きするような真剣さで教材に書いてある一語、一語を読み、これはどのようなことかを知る努力をすること。

②教材に書いてある語句の意味がよくわからないときには、辞書や参考書を用いてその意味を調べる。調べた内容は必ずノートに書き写すこと。

③「何がよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと」が「予習の意味」です。

*「予習」とは「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」と定義します。



Q12：「定着」とは何ですか。

A：(1)「定着」とは「うんなるほどと理解した内容をスミからスミまで身に着けること」と定義します。

(2)「定着」のためには「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」が有効です。

(3)「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を、開倫塾では「定着のための3大練習」と定義します。

Q13：「音読練習」とは何ですか。

A：「音読練習」とは「うんなるほどと一度理解したことをスラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすること」と定義します。

Q14：「書き取り練習」とは何ですか。

A：「書き取り練習」とは「音読練習をしてスラスラとよく読めるようになったことを、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすること」と定義します。

*「筆順」も大切です。

Q15：「計算・問題練習」とは何ですか。

A：(1)これを「けいさん、ポチ、もんだいれんしゅう」と開倫塾では読みます。

(2)「計算・問題練習」とは「なぜそのような解答になるかがよく理解できた計算や問題について、見た瞬間に条件反射で正解が出るまで計算練習、問題練習を繰り返すこと」と定義します。

Q16:「定着のための3大練習」をする上で大切なことは何ですか。

- A : (1)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生のことばがあります。開倫塾では「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績の大幅向上、希望校合格、3大検定毎年合格を可能にする」と考えます。
- (2)「定着のための3大練習」の大前提は、「授業」や「自習(自己学習)」で「定着」させるべき内容がうんなるほどとよくわかっていること、つまり十分に「理解」していることです。
- (3)十分に「理解」していない意味・内容でも、音読や書き取り、計算・問題練習を繰り返すうちに少しずつわかってくるという考えもあります。そのようなこともあります。が、「定着のための3大練習」をする前に、内容の「理解」の取り組みをできるだけし続けるべきと考えます。
- (4)ここに書かれているのはどのような意味なのか、また、なぜこのような解答になるのか、その意味や価値(大切さ)を十分に「理解」した上で「定着のための3大練習」を行い、「理解」したことをすみからすみまで身に付けてください。
- (5)「定着のための3大練習」は、「学校の定期試験・実力テスト」「すべての入学試験」「すべての模擬試験」「3大検定(英語検定、漢字検定、算数・数学検定)」で絶大な効果を発揮します。

Q17:「応用」とは何ですか。

- A : (1)「応用」とは「試験でよい点数が取れること」と「社会で役立てることができること」と定義します。
- (2)「学校の定期試験や実力テストで100点満点が取れること、入学試験や検定試験、資格試験等で合格点が取れること」と定義します。
- (3)試験でよい点数を取るためには、「理解」「定着」を図った上で「過去問と予想問題を繰り返し学習すること」が最も効果的です。
- (4)「過去問」とは「その試験で過去に出題された問題」と定義します。
- ①すべての試験には「過去問」があります。試験の1~2か月前から「過去問」を数年分、できれば5~6年分以上を5~6回繰り返し学習すること。
- ②できれば5~6年分の「過去問」の「本文」「設問」「選択肢」「解答・解説」のすべてについて、辞書や参考書を用いて「理解」を図ること。「理解」したあとは「定着のための3大練習」を徹底的に行うこと。
- ③「間違いノート」と「まとめノート」を作成すること。
- (4)「予想問題」も「過去問」と全く同じ手順を踏んで学習すること。
- ①開倫塾の「定期試験対策予想問題」「模擬試験対策予想問題」「入学試験対策予想問題」「3大検定試験対策予想問題」の「的中率」が極めて高いことは、定評があります。
- ②それらを解き、答え合わせをしたあとに5~6回解き直し、辞書や参考書を用いて「理解」を図り、「定着のための3大練習」を繰り返すことは、絶大な効果があります。



Q18：社会で役立つ「応用」を図るためにはどうしたらよいですか。

- A：(1)すべての科目の学習は積み重ねですので、学校や開倫塾で学んだことは上級学年や上級学校ですべて役立ちます。小学校で学んだことは中学校で、中学校で学んだことは高校で、高校で学んだことは大学・短期大学・専門学校・大学院で、高校や大学等で学んだことはすべて社会で役立ちます。
- (2)上級学校や社会で役立つためには、学校や開倫塾で今までに学んだことを必要に応じて即座に引き出せなければなりません。
- (3)ですから、大切なことは学校や開倫塾で学んだ教科書・教材・資料・参考書、授業ノートは絶対に処分しないこと、すぐに見られるように常に身近に置いておくことです。
- (4)何かものごとを考えるときには、常に学校で学んだことをもう一度学び直してみることが大切です。

Q19：「学力」とは何ですか。

- A：(1)「学力」とは「主体的に学ぶ力」と定義します。「自分から進んで学ぶ力」が「学力」です。
- (2)この意味での「学力」を身に着けるためには、「ハードな長時間学習」ができる能力を身に着けることが求められます。
- (3)「学習の3段階理論」をやり抜くには、「ハードな長時間学習」と「主体的に学ぶ力」が不可欠です。

Q20：「教育の成果を決定する要因」とは何だと考えますか。

- A：(1)「本人の自覚」と「先生の力量」だと考えます。
- (2)「何のために学ぶのか」「進学をした学校で何がしたいのか」「何のために働くのか」「社会に出て何がしたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」などを自分の力で考える。自分なりに「高い志」を立て、そのために今何をしなければならないかを「自覚」して「主体的に学ぶこと」が大切だと考えます。
- (3)「先生の力量」として最も大切なことの1つは、「本人の自覚を促すこと」です。
- (4)開倫塾では、「本人の自覚を促すことを目的にした武者語り(むしゃがたり)を3分以上すること」がすべての先生の義務事項となっています。
- (5)今日の授業でどのような「武者語り」をして、塾生一人ひとりの「自覚を促すか」を絶えずお考えください。塾長のHPの内容は、そのための参考資料です。御活用ください。

— 2015年3月9日林明夫記 —



日本経営品質賞委員会編集・発行「2015年度版、日本経営品質賞—アセスメント基準書—」生産性出版 2015年2月19日刊を読む

経営品質の向上とは

経営品質の向上とは、組織が継続的な経営革新に取り組み、「卓越した経営」を目指すことです。

「卓越した経営」の卓越とは、「抜きん出る」ということで、他を圧倒するとか、際立っているというニュアンスに近いものです。特に重視するのが独自性です。平均的、平凡な考え方や方法ではなく、独特で他に類を見ないような考え方ややり方を創り出すことを目指します。

このアセスメント基準書は、経営革新を進めるために「思考の枠組み」として用いてください。

1. 基本理念

「卓越した経営」を行うために、前提とする価値観をまとめたものが基本理念です。経営の卓越さを高めるためには、この基本理念に沿った考え方で経営革新を進めてください。

①顧客本位

組織の目的は、顧客価値の創造です。

価値の基準を顧客からの評価に置きます。顧客から見た価値がすべてに優先する基準であり、すべてのことは、顧客へ価値を創造、提供することができるかという観点で評価されるものと考えます。もちろん組織である以上、売上や利益の追求も重要ですが、それは顧客への価値提供の結果として得られるものである、ということをお大前提としています。

②独自能力

同質的な競争を避け、競争優位性を確保するには、独自能力の追求が重要です。

自分たちの組織の独自の見方、考え方、方法による価値実現を目指します。顧客価値を高めるためには、競合する他組織とは異なる競争軸、独創的な価値提供、長期的な全体最適の経営を重視します。独自の価値を創造するには、独特の見方、考え方が必要です。単に手法を真似るのではなく、平均的な見方、ありきたりな考え方を避ける習慣づくりが必要となります。そういう習慣を通じて、他組織には見られない「独自能力」が形成されていきます。

③社員重視

社員一人ひとりを大切にし、社員のやる気と能力を引き出すことが重要です。

社員は組織において最も大切な経営資源です。顧客価値を創造するためには、社員一人ひとりが顧客の視点にたって仕事を行い、チームワークを発揮することで組織として顧客価値の創造に取り組むことが求められます。そのためには、社員が思ったことを言える自由闊達な組織風土をつくり、社員が自分の成長のための学習の機会をつくるとともに、社員同士が対話する場をつくることで組織としての新たな知恵を創造できるようにすることが大切です。

なお、社員とは雇用形態などの違いに関わらず、組織内で働くすべての人々をさしています。

①社会との調和

社会に貢献し、調和することが重要です。

組織は社会を構成する一員であるという考え方にもとづいて、あらゆる組織は、社会に対して価値を提供し、社会から信頼される存在となることを目指します。社会との調和とは、自組織の価値観にもとづく社員の思考・行動、市場での競争の戦い方などが、社会的な価値観にも合致していることです。自己中心や独りよがりと独自性・独創性をはき違えることがないよう、常に組織の中に社会的な価値観で物事を見る感覚を取り込むことが必要です。組織目的の達成が社会全体の利益にもつながるように考えられ、さらには、より良い社会づくりに主体的に参画・行動する組織を目指します。

2. 重視する考え方

アセスメントでは、経営におけるプロセスやシステムについて検討や洞察をします。そこでは、どのように考えるか、どのような考え方をを用いるかということに直面します。その際に答探しをするのではなく、「こう考えてみたらどうだろう」という問い探しをすることが望まれます。その問い探しに役立つ考え方をまとめたものが「重視する考え方」です。

本アセスメント基準書では、重視する考え方 9 項目を掲げています。

①コンセプト	④プロセス	⑦戦略思考
②変革	⑤創発	⑧ブランド
③価値前提	⑥対話	⑨イノベーション

③価値前提

事実に基づいて考えるか、それとも価値観に基づいて考えるか。前者を事実前提、後者を価値前提といいます。どちらも必要なのですが、前者はどちらかというとき常識的でごく普通に誰もがやっていることです。それに対して後者は独自に改めて考えないと明確にされないという面があります。

特に何を重視するかということがない場合、企業組織は効率を良くしようとします。もともと管理とは「所与の条件下で効率向上」をするものと考えられてきたので、管理者は共通して効率化を目指すのです。

それに対して、自社が顧客に提供する価値をわかりやすく表現して、それを考える基準とするのを価値前提といいます。こちらは、ビジョンやミッション、あるいは経営理念や部門方針などのなかで、「当社(部門)はこういう価値を大切にしますよ」というコンセプトを表現します。そこに示された価値がすべてのことを考える際のよりどころなのです。

事実は多様ですから、しっかりとした価値前提がないと、どの事実に焦点化するか定めにくくなります。よいと思われることをあちらでもこちらでも脈絡なくやっていて、さらにそれらがお互いに矛盾していて、全体的にはバラバラになっている。それを部分最適といいます。価値前提で考え行動することはそれを防ぐための全体最適化なのです。

④プロセス

プロセスにはいくつかの意味があります。ひとつは一般的な過程という意味です。特に結果ではなく、それを導いた道筋を見る場合に用います。二つ目は品質管理や業務改善の考え方で結果の上位概念で、システムの下位概念です。もうひとつは組織開発の言葉で、組織の活性度を意味しています。

経営上でプロセスという場合、少なくともこの三つの意味を包含しています。企画という仕事の結果は製品企画案の完成ですが、そのプロセスではどのような思考や対話の方法を用いたのか、進め方にはどのような工夫をしたのか、そのプロセスでは人間関係やコミュニケーションはどのように活性化したのか、ということを含んだ考え方なのです。

特にプロセスという言葉を用いる場合のポイントは、それが「どのように」行われているのかという、一般的なやり方や平均的な方法との違いに着目します。独自性、秀逸さ、特異性などを見ようとするのです。

またプロセスは改善や革新の対象として使われることもあります。その場合は、企画プロセス、業務プロセス、顧客関係プロセスなどと呼ばれます。プロセスの効率化を目指すものがプロセス改善で、プロセスの差別化や独自化を目指すものはプロセス革新と呼ばれます。

[コメント]

日本経営品質賞が目指す経営品質向上の取り組みが極めて具体的、詳細に述べられているので、「経営の教科書」として活用することをお勧めしたい。

— 2015年4月29日 林 明夫記 —

受験生こそ「5S」を身に着けよう

—「整理」・「清掃」・「整頓」・「清潔」・「躰」は人生の宝物—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q : 「5S」とは何ですか。

A : (林明夫 : 以下省略) 「5S」とは

(1) 「整理」(seiri)、^{せいり}「清掃」(seisou)、^{せいそう}「整頓」(seiton)、^{せいとん}「清潔」(seiketu)、^{せいけつ}「躰」(shituke)^{しつけ}
の5つのことです。

(2) ローマ字で表記すると、すべてSで始まるので「5つのS」、「5S(ごえす)」といいます。

Q : 一つ一つの「S」の意味は何ですか。

A : (1) 「整理(seiri)」とは「不要なものを捨てよう」ということです。

(2) 「清掃(seisou)」とは「常にきれいにしよう」ということです。

(3) 「整頓(seiton)」とは「すぐに取り出せるようにしよう」ということです。

(4) 「清潔(seiketu)」とは「整理、清掃、整頓の3Sを維持しよう」ということです。

(5) 「躰(shituke)」とは「決められたことをきちんと守ることを心掛けよう」、「自分から進んで自主的に整理、清掃、整頓、清潔を行おう」ということです。

Q : 塾長はなぜ「受験生こそ5Sを身に着けよう」とおっしゃるのですか。

A : (1) 「5S」はもともと企業の成長と地域の発展は人づくりからという考えで、日本国内の多くの企業や地域で「5S」の活動がさかんに行われています。最近ではアジアや欧米だけでなくアフリカを含む世界中で「5S」活動が行われ、企業や地域の発展に役に立っています。

(2) この「整理」「清掃」「整頓」「清潔」「躰」の「5S」の活動は、学校を卒業して社会に出たあとに仕事や社会的活動をするときだけでなく、学校や家族での生活にも役に立つと私は考えます。

(3) 特に受験生は、受験当日が近づけば近づくほどやるべきことが多くなりますので、この「5S」が役に立ちます。そこで、「受験生こそ5Sを身に着けよう」と強く訴えたいと思います。

(4)開倫塾では、学校時代から「5S」に親しんでもらいたい、特に多忙を極める受験生は「5S」を活用して受験生活を進めてもらいたいと願い、昨年10月よりすべての校舎で「開倫5S学校」をスタートしました。塾生の皆様は開倫塾に在籍している間に少しでも「5S」を身に着け、充実した学校生活、受験生活を送ってください。

(5)一度身に着けた「5S」は高校や大学、大学院に進学してからも、また、社会に出て仕事や社会的活動をするときにも役に立ちます。充実した人生を送る上で必ず役に立ちます。ですから、開倫塾でしっかりと「5S」を身に着けていただきたいと希望します。

Q：具体的には何をどうすればよいのですか。一つ一つ例を挙げて「5S」の内容を説明してください。

A：「整理」とは、不要なものを捨てようということです。

(1)1日に1回、カバンやバッグ、筆入れの中の要らなくなったものを捨てる。ここから「整理」をスタートしましょう。

(2)学校の机の中やロッカーの中からも不要なものを捨てましょう。

(3)家の自分用の机の上や机の中、本棚などにある不要なものも捨てましょう。

(4)家の自分用の物入れの中にある不要なものも捨てましょう。

(5)自分が使っている部屋の中にある自分の持ち物の中の不要なものも捨てましょう。

*ゴミなどは自分の判断でどんどん捨ててOKですが、捨ててよいものかどうかは学校の先生や保護者の方とよく相談してくださいね。

Q：捨てるものは結構あるのですね。不要なものを捨てたあとはどうしたらよいのですか。

A：(1)よい質問ですね。「整理」のあとに行うのが「清掃」、つまり常にきれいにしようです。

(2)カバンやバッグ、筆入れ、机、本棚、ロッカー、物入れの中を「整理」して不要なものを捨てたあとは、常にきれいにする「清掃」を必ず行いましょう。

(3)「整理」で不要なものを捨てたあとは、常にきれいにする「清掃」を行うことが大切です。心の中まできれいになります。

Q：「整理」し、「清掃」したあとはどうしたらよいのですか。

A：(1)これもよい質問ですね。「整頓」してすぐに取り出せるようにしよう、これが答えです。

(2)カバンの中やバッグの中、筆入れの中、机の上、机の中、本棚の中、ロッカーの中、自分の物入れの中のものは、すぐにパツ、パツと取り出せるようにしましょう。一つ一つのものをどこにどのように置くか、位置をよく考える。ものは同じところに置くことが大切です。

(3)使ったものは必ず元の位置に戻すことも「整頓」に入ります。

(4)鉛筆やボールペンなどは必ず使い切ってくださいね。使い切る前に 1 本だけ補充することも大切です。

(5)この「整頓」が身に着いてくると、ものを探す時間が極端に少なくなりますから、勉強や、そのときにやるべきことに集中できます。余計なものを買わなくなりますから、節約ができ、お金もたまりますよ。

Q：4つ目の「清潔」とは何ですか。

A：(1)「整理」「清掃」「整頓」の「3S」を維持しようということです。

(2)大切なのは「3S」をやり通す、絶対に中止しない、止めないことです。「継続は力」です。「3S」をやり通せば勉強や仕事の効率がどんどん上がり、成績もどんどん向上します。

(3)カバンの中や机の上、机の中、部屋の中がスカッとして、気持ちよく過ごせます。これが「清潔」です。

Q：5つ目の「躰」とは何ですか。

A：(1)「躰」とは、決められたことをきちんと守ることを心掛けようということです。みんなで決めたことはみんなで守ること、ルールの中でプレイをすること、卑しい行動はしないことが大切です。

(2)自分から進んで自主的に「5S」に取り組もうということです。いやいや、無理矢理では「5S」は長続きしません。自分の意志で、自分のためにみんなのために「5S」を行いましょう。

Q：最後に一言どうぞ。

A：開倫塾の創業の地で本部のある栃木県足利市では、働く人の自主性を尊重した 5S 運動がさかんです。足利商工会議所の中に「足利 5S 学校」があり、企業の成長と地域の活性化は人づくりからという観点で、企業はもとより、市役所や学校、福祉施設などでも 5S 運動を進めています。開倫塾は「足利 5S 学校」の趣旨に賛同し、昨年 10 月に「開倫 5S 学校」を発足、少しずつですが活動を行っております。本年の 11 月 6 日・7 日に足利市で第 2 回世界 5S サミットが開催されますので、開倫塾も参加の予定です。どうかよろしく願いいたします。

筆者紹介

- ・ 宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・ 足利商工会議所 議員
- ・ 足利 5S 学校 役員
- ・ 第 2 回世界 5S サミット実行委員会 副委員長

— 2014 年 10 月 2 日記 —